



熱い仲間たちと
共に

● 竹内 康裕

国労東日本本部 特別執行委員



私は2017年4月に中途入社社員としてJR東日本ステーションサービス（以下、JESS）に入社し、同年12月に国労に加入いたしました。

前職では一般企業の会社員をしており、社員数は3万人ほどでしたがほぼ100%労働組合に加入していました。そのため、入社して研修施設で役員より「JESSはオープンショップ制を導入しており、複数組合があり好きな組合に入ることが出来ます。入るときは慎重に入るようにしてください」と言っていたのを記憶しており、なんだか面倒くさい会社だと当時感じました。

入社してすぐにJR東日本からの出向社員のIさんに出会いました。この方に公私ともお世話になり可愛がっていただけました。Iさんからは入社してすぐに「竹内、組合に入らなくていいぞ。この会社だと差別されるから」と聞き、耳を疑いました。「平成なのに、まだこんな会社あるんだ!？」とびっくりしました。ただ、組合に入るとは決めていたのでどの組合に入ろうかという事しか悩んでおりませんでした。私の中では国労しかないと思い加入しました。

加入する前にIさんから必死に止められました。2か月間も加入届を受け取ってもらえませんでした。今思うと僕の人生を本当に心配してくれていたのだと思います。何度も加入を止められましたが、仕事も掃除も食事づくりもコミュニケーション力も超一流の駅員だとIさんを心から尊敬して

いたからこそ、私も国労に入りたいと願っていました。

ある時、Iさんが新入社員向けの組合の説明会の時に社員に語った一言が忘れられません。それは「自分がいる駅に入った後輩社員は、組合加入に限らず自分が生きている限り一生面倒見ていくと決めている」という言葉でした。私は心から国労に入って良かったと、Iさんと出会って良かったと感じました。

恐らく皆さまの近くにもそういった熱い方がいらしたと思います。国労が数多ある他の組合と大きく違うのは、組合員から人の温度を感じられる組織という点です。優しく、情熱があり、仲間思い、義理堅く、困っていたらほっておけないそんな方が多いです。加入一つとってもそう感じます。私は四国から届いた色紙の檄をみてとても驚き、とても嬉しく感じました。いろいろな地域からいただいた檄はいまでも大事にとってあります。組合に入ってからIさんのような組合員の皆さんから沢山優しく接してもらえました。

国労の歴史からみたら大変な時期かもしれないと思いますが、長い目で見たときにこの時期は辛かったねと言って乗り越えられるよう仲間たちと共に頑張っていきたいと思っています。そして、同じような気持ちをもつ仲間とならこの難局を乗り越えていけると信じています。